

製品名: PP2Cε ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab16399

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	42kDa

抗原情報

遺伝子名	PPM1L
別名	PPM1L; PP2CE; Protein phosphatase 1L; Protein phosphatase 1-like; Protein phosphatase 2C isoform epsilon; PP2C-epsilon
遺伝子 ID	151742.0
SwissProt ID	Q5SGD2
免疫原	抗血清はヒト PPM1L 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 119-168

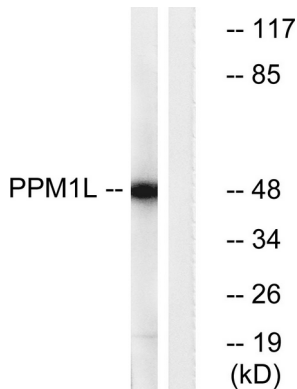
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、マグネシウムまたはマンガンを必要とするホスファターゼであり、複数のシグナル

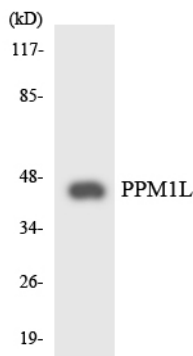
伝達経路に関与しています。このタンパク質は、細胞が細胞傷害性ストレスにさらされた際にアポトーシスにつながるシグナル伝達カスケードを開始するタンパク質であるアポトーシスシグナル制御キナーゼ 1 の発現を低下させます。また、このタンパク質は小胞体膜貫通タンパク質でもあり、小胞体からゴルジ体へのセラミド輸送の制御に関与しています。最後に、この遺伝子は脂肪組織で発現上昇することから、肥満に関与している可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっています。 [RefSeq 提供、2015 年 12 月],触媒活性: リン酸化タンパク質 + H(2)O = タンパク質 + リン酸。補因子: サブユニットあたり 2 個のマグネシウムまたはマンガンイオンに結合する。機能: MAP3K7/TAK1 および MAP3K5 と会合して脱リン酸化することにより、また MAP3K7/TAK1 と MAP2K4 または MAP2K6 との会合を弱めることにより、SAPK シグナル伝達経路の抑制因子として作用する。類似性: PP2C ファミリーに属する。類似性: 1 つの PP2C 類似ドメインを含む。サブユニット: MAP3K7/TAK1 と相互作用する (類似性による)。MAP3K5 と相互作用する。組織特異性: 普遍的。心臓、胎盤、肺、肝臓、腎臓、膵臓で高発現する。、

研究分野

画像データ



PPM1L 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



PPM1L 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウエスタン ブロット分析。

PP2Cε ポリクローナル抗体を用いた Jurkat 細胞のウェスタンブロット解析

